

令和7年度

高松市議会
まちづくり
対話会

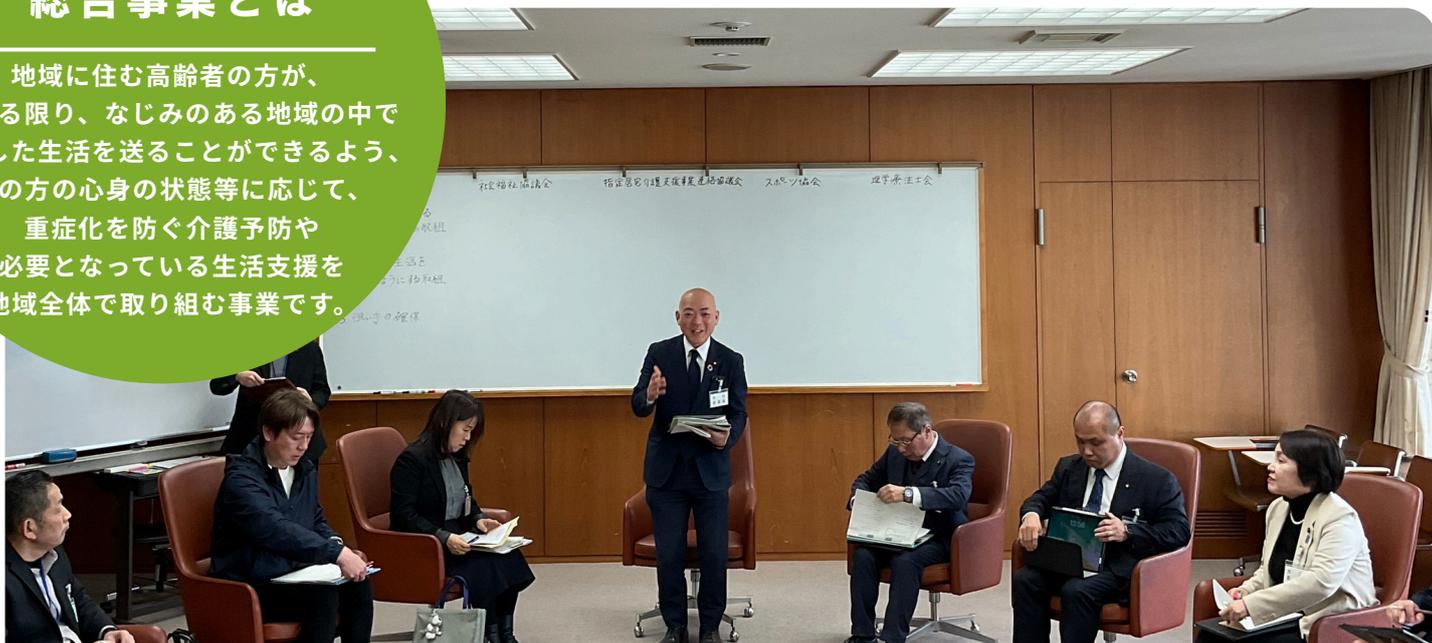
介護予防・ 日常生活支援総合事業の さらなる推進について

教育民生常任委員会

日時：令和8年1月30日（金） 午後2時～午後3時35分
会場：高松市役所本庁舎 議会棟4階 第5委員会室

介護予防・ 日常生活支援 総合事業とは

地域に住む高齢者の方が、
できる限り、なじみのある地域の中で
自立した生活を送ることができるよう、
その方の心身の状態等に応じて、
重症化を防ぐ介護予防や
必要となっている生活支援を
地域全体で取り組む事業です。



【開会】

中村委員長の司会により、高松市議会まちづくり対話会を開会いたしました。

まず、今年度の所管事務調査（毎年度、各委員会の所管に係る政策的なテーマを設定し、1年間を通して調査・研究を行い、市当局に対して政策提言を行うもの）について紹介した後、参加者の自己紹介、糸瀬副委員長から本対話会のテーマについて概要説明を行いました。

今回は3つの論点に基づいて活発な議論が行われ、下記のような御意見をいただきました。

論点 1 介護・支援が必要になる前の高齢者への 取組について

- 現場に情報が行き届いていない。
- 行政・地域団体による広報強化が必要である。
- 歩いて行ける範囲に居場所・サロンがあればよい。

- 介護予防に対する意識が低い人にアプローチができていない。
 - 地域イベントに併せてフレイルチェックや体力測定を実施してはどうか。
 - 小さな達成感やインセンティブを得られることが重要である。
 - 特に、高齢者は信頼できる人(家族や友人)からの情報を重要視する。
 - 専門職が行っている測定やチェックの運営手順等を地域へ伝えていくことで、地域での役割を支援していくことにつながるのではないか。



- 女性よりも男性のほうがデイサービス等を利用したがない傾向にある。
 - 男性が参加しやすいプログラムを設計してはどうか。

- 本人よりも家族(子や孫)のほうが心配しているケースが多い。
 - 本人でなく、その家族にアプローチすることも有効ではないか。(その家族が高齢者となった時の予習にもなる。)
 - 家に籠もってしまうと体が弱っていくため、家族の後押しで外出・参加を促すことが重要である。

- 家族が高齢者のチェックを行うとポイントが付与されるなど若者向けの動機づけが有効ではないか。

- 趣味や世代に合わせたイベントを開催してはどうか。

- 介護離職を防ぐために企業も努力して取り組んでいるが、中小企業においては体力的な面からも十分にできていない実情もある。
 - 行政による金銭的な補助ができないか。(補助金等)
 - 優良な取組をしている企業を表彰するのはどうか。

論点 2

支援を受けている高齢者が 自立した生活を送れるようにする取組について

- 体だけでなく気持ち(心)の面での影響が大きく、居場所が近くにあっても行くのがおっくうになってしまう。
 - 通いの場への移動支援が重要ではないか。

- 短期集中型サービスは安定しない側面がある。
→継続することが自立支援につながる。支援を止めてしまうと悪化してしまう。
- 老いとともに健康状態が低下することは致し方ないが、いかに長く現状を保つことができるかが重要である。

短期集中型 サービスとは

生活機能改善を目指す期限（6か月間）を明確に設定した上で、運動・口腔・栄養プログラムのサービスを提供するもの

論点 3

担い手の確保について

- 多様な担い手の組み合わせが有効である。
(専門職+ボランティア+企業+学生+シニア人材)
- 地域で支えてくれる人たちのモチベーションの維持が必要である。
- 介護人材の待遇・キャリア支援をすべきである。
- シャドウワーク(業務外業務)の削減が必要である。
- スポーツ指導者の登録の強化と活動機会の創出をすべきである。
- 介護DXの推進を見据えて、ケアマネ等介護に携わる人たちがICTをうまく活用できるように指導できる体制の構築が必要である。
- 支援が必要な人も担い手になることで、双方で支え合うこともできる。
- 成功事例の取組を紹介する。
- 男性に役割を持たせるなど、出てきやすい環境をつくる。

【閉会】

糸瀬副委員長から閉会の挨拶をして、対話会を終了しました。

会の開催に御協力いただきました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

